



友の会通信

131
2026.2

Vol.29 No.4 通巻131号 2026年3月15日発行(年4回発行)



友の会 役員 の役割と魅力

博物館と市民をつなぎ、自然への感動を広める「架け橋」



企画・イベント

サロン（交流会）や自然観察会の企画・運営を行います。会員同士の知的好奇心を刺激し、交流を深める場を作ります。

広報・編集

機関紙「自然科学のとびら」の編集協力やウェブサイトの運営を担当。博物館の魅力が社会へ広く発信する重要な役割です。

博物館支援

学芸員と連携し、館の事業をサポート。展示の理解を深めると同時に、運営側としての知見を得ることができます。

生命の星・地球博物館友の会 役員募集

県立生命の星・地球博物館友の会では、2026年度の役員を募集しています。

友の会は、会員相互の交流、親睦を深めるとともに、博物館の活動を支援し、地域社会の生涯学習に貢献することを目的とした組織です。

一緒に友の会を盛り上げてくれる方、お待ちしております！

目次

事務部より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	9

事務局より

2025年度第5回友の会役員会の開催

2025年12月20日(土)14時15分より、今年度第5回の友の会役員会を開催しました。

現在の会員数及び収支についての報告がありました。支出は予定どおり推移しており、10月に実施された中間会計監査においても「適正な運用」であると認められました。

つぎに来年度の定期総会について話し合われました。詳細は別途お知らせしますが、日程は2026年4月26日(日)の午後から、イベント(酒井恒博士のカニコレクションに関する講演会を佐藤学芸部長と一寸木おおい自然園園長をお招きし開催)及び懇親会を開催する予定です。

企画部からは今年度下半期の講座の確認及び来年度の講座の状況等の報告がありました。また来年度開催予定の里山の動物に関する特別展にからめて友の会でも「動物とヒトとのあるべき関わり方」などをテーマとしたシンポジウム形式の講演会を行ってはどうか、といった提案がありました。こちらは今後詳細を詰めていく予定です。

2025年度第6回友の会役員会の開催

2026年2月7日(土)14時30分より、博物館会議室にて第6回役員会が開催されました。会員数は12月から多少増えており、地学関係の講座が盛況だったことによるものと思われます。また今年もミュージアム・フェスタへの参加及びミニ展示コーナーにて講座の紹介を行います。ぜひ、ご覧いただければと思います。

なお、1月17日に開催しました「第145回サロン・ド・小田原」ですが、今回初めて会場に加えzoomによるオンライン配信を行いました。不慣れなためマイクの設定やWEB参加申込み方法等で、ご迷惑をおかけしたところをお詫びいたします。多くの方にご参加いただけるようオンライン開催は今後も続けて行く予定ですが、今回の反省を踏まえ、次回はしっかり対応したいと思います。

情報クリップ

2026年度 友の会会員数：336名(1月31日現在)
正会員：333名/賛助会員：3名

●会員更新の手続きについて

会員更新の手続きは、お済みですか?2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認のうえ、更新の手続きをお願いいたします。

また、2023年度から単年度納期のみに変更となっております。振込用紙は、次年度の会費をご入金済みの会員様にも送付しておりますのでご了承のうえ、ご注意ください。

●企画展「自然史アーカイブズをひらく」のお知らせ



開催期間：2026年2月21日(土)
～5月10日(日)

野山を歩き、川や海に入り、動植物や地質等を調査・研究する自然史科学。その舞台裏では、スケッチ・メモ・写真等の膨大な記録資料が生み出されてきました。

そこには、調査の足跡や失われた自然の姿、博物館の収蔵標本の情報、ときには研究者たちの情熱が眠っています。残された記録資料を読み解いて、自然史アーカイブズへの道を拓いてみましょう。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館
企画普及課 TEL:0465-21-1515/FAX:0465-23-8846
ウェブサイト：<https://nh.kanagawa-museum.jp/>

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「荒崎の海岸植物」

2025年11月11日（火）／横須賀市長井/15名
（スタッフ含む）/講師:田中徳久当館館長/担当：
植物グループ

晩秋の三浦半島。海岸ならではの植物が見られると知り、楽しみに参加させていただきました。京急三崎口駅に集合し、バスに乗って終点荒崎で下車。お天気にも恵まれ、風は冷たかったものの、歩いているうちに体が温まります。ほのかな潮の香りにわくわくしてきました。

可愛らしい吸盤で壁に張り付いていた紅葉のナツヅタを愛でながら進むと、お待ちかねの海が目の前に。砂浜では、イワダレソウのかわいらしい花序が出迎えてくれました。



イワダレソウ

岩場には、鮮やかな黄色の花を咲かせたイソギクやワダン、足下にはぺたんこのハマエノコロやぽってりとした葉を密につけたタイトゴメ。街中では見ることができない植物が次々に眼に飛び込んできます。葉が厚くなるなど、潮風や塩分、乾燥などに耐えられるよう進化したと教えていただきました。田中先生からは、イソギクとその仲間の分布について、太古の気候変動によってその場に残ったり別の場所に分布を変えるなど、棲み分けが行われたとのお話がありました。

最後に、資料を見ながら、観察できた植物の答え合わせをして終了。実りの秋という言葉通り、テリハノイバラやヤブニッケイなど色とりどりの果実も



イソギク



ワダン

見られ、目にも楽しい一日となりました。植物初心者ではありますが、海岸植物たちの強くたくましい姿を目の当たりにし、くらす場所に適応し続けてきた工夫がよくわかりました。教えていただいたみなさま、ありがとうございました。（洲之内早苗）



観察会風景

◆植物観察会「皇居東御苑の植物」

2025年12月17日(水)／東京都千代田区／
18名(スタッフ含む)／講師：田中徳久当館館長
／担当：植物グループ

12月の観察会ということで寒さを心配していたが暖かな陽が射し風もなく都会の真ん中での穏やかな観察会となった。

東京駅で集合後、すぐそばのビルの入り口にあるヒマラヤザクラを観察する。もう終わりに近かったがたくさんの長い雄蕊が突き出ている。歩道にエンジュとイヌエンジュが植えられている。葉は殆ど落ちていたが果実が残っておりエンジュの数珠状にくびれた果実、イヌエンジュの特にくびれない果実が青空によく見える。

簡単な荷物チェックの後いよいよ東御苑に入る。サザンカの花が盛りで参加者同士でも自生のサザンカの分布の話や琉球にみられるヒメサザンカの話などで盛り上がる。またチャノキが出てきて雌蕊を探したりして楽しむ。

タラヨウ(ハガキノキ)は雌雄異株で果実を見る機会はありませんが果実が赤く熟し鈴なりになっている。何人も人が字を書いたらしく多くの葉裏に字が書かれており、何となく微笑ましい。

地味なマンサク科のイスノキも素人同定の決定打?の虫こぶで参加者の人気者。立派な虫こぶを見つけた参加者もいらした。

果樹の古品種園ではカキ・リンゴの仲間はすでに鳥たちに食べられたのか果実の一つも見えない。柑橘類の果樹園にはちょうど食べごろの、初めて聞く名前の



三宝柑

柑橘類が多数植えてあり私としては是非試食をしたいと思います。田中先生から三宝柑(サンボウカン、サンボウカン)があまりにおいしいので産地の和歌山藩で藩主が城外不出の果物にした話など伺う。

芝生でのんびりと昼食後、バラ園へ。コウシンバラ(庚申薔薇)が寒さの中でも咲いており「素敵ね、私大好き。」「植えたい。」等々参加者の評判が良い。中国原産の園芸種だそうで古い時代に日本に来たとか。薄紫とピンクの中間のような色が何とも魅力的。なぜ庚申か、と家に帰り調べたところ、庚申

(こうしん、かのえさる)の日は暦で60日に1回やってくる、それくらい良く咲く、ということだそう。他にもツクシイバラ、ハマナスなど多くのバラの親に使われた種が植えられていた。

今回の観察会のハイライト、カモメギクを見に行く。あーあ、残念!ほとんどが終わっていた。田中先生による



カモメギク

とキクタニギク(アワコガネギク)と同じというお話だがこんなに葉の幅が狭いのに、と参加者一同少々不満気。逆に考えれば葉が細いだけで分けるのは無理ということか。

昭和天皇の発案で開発予定の武蔵野の雑木林を土ごと移して造った雑木林を散策、各県の木が植えてあるゾーンへ。北海道の木のエゾマツが2本植えられているが何かおかしい、となる。2本は同じに見えない。しかし、よく見たら1本の木にはアカエゾマツと小さな名札が付いていて、一同納得!

池には優雅にコイが泳ぐ。これもひれが大きく何となく雰囲気が違う。ヒレナガニシキゴイといい上皇陛下の発案で作出されたニシキゴイとインドネシア産ヒレナガゴイの交配種だそう。

冬の1日、東京の真ん中での観察会も皆で植物を見れば発見がたくさんあり疑問が出れば教えてください。田中先生もいらして、それでもわからないことは各自また持ち帰り楽しい1日を過ごした。

(植物グループ 小久保恭子)



池の中を行く参加者

活動報告（生物間共生講演会）

◆第14回「植物と土をつなぐ菌類Ⅱ：生きている化石アーバスキュラー菌根菌について」
2025年11月29日（土）／博物館講義室／32名
／講師：阿部淳一ピーター氏（筑波大学助教）

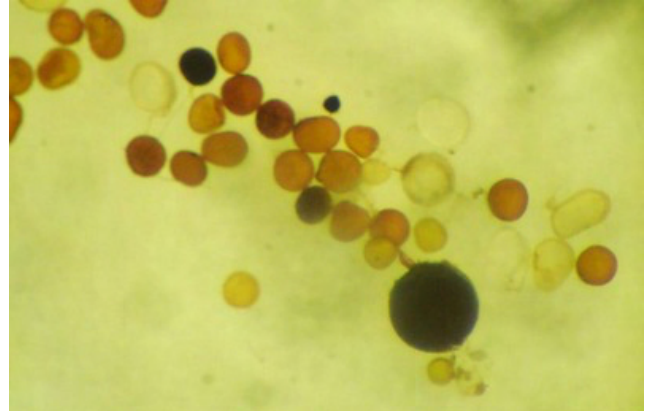


丁寧な答える阿部先生

前回の菌根菌の講座で、菌根菌が単なる「分解者」ではなく、植物にリンなどの栄養を届ける「共生パートナー」であることを学び、その奥深い世界に魅了されたことが、今回再び足を運びきっかけとなりました。私は菌類学の専門家ではありません。だからこそ、今回の講演を通じて「少しでもこの未知の生物の正体に近づきたい」という期待を抱いていました。しかし、講演を聴き終えて私の胸に残ったのは、知識が増えた満足感以上に、「まだまだ私たちは何も知らないのだ」という、心地よいほどの驚きでした。

本講演のテーマである「アーバスキュラー菌根菌」は、4億年以上も前から植物と共に生きる「生きた化石」です。植物の根の中に入り込み、共生関係を築く彼らですが、そもそも異物であるはずの菌が、植物の免疫システムを回避していかにして根の内部へ侵入するのか、その根本的なメカニズムさえ未だ多くの謎に包まれているそうです。特に印象的だったのは、彼らの生物としての「あり方」の不思議さです。アーバスキュラー菌は世界中で確認されているにもかかわらず、その種数は極めて少なく、さらには有性生殖が確認されていないといえます。遺伝子を混ぜ合わせる有性生殖を行わずに、どのようにして4億年もの環境変化を生き抜いてきたのか。会場には菌類にお詳しい参加者も多く見受けられましたが、この

事実には会場のあちこちから驚きの声が上がっていました。また、例外的に藍藻（シアノバクテリア）を体内に取り込んで共生する「ゲオシフォン」という種の存在など、知れば知るほど、教科書的な定義を軽々と超えていく彼らの多様な生存戦略に圧倒されました。



実体顕微鏡の中の孢子たち

後半の質疑応答や講演内容では、農業への応用という実用的な側面にも触れられました。前回の学びで、水耕栽培などでは菌根菌の出番がないことは理解していましたが、「では、土耕栽培なら救世主になるのか？」という点が私の最大の関心事でした。先生のお話によれば、日本の一般的な農地のように肥料（特にリン）が豊富な環境では、植物が菌の助けを必要とせず、菌根菌資材の効果は限定的であるとのこと。むしろ、水や栄養が乏しい不毛な土地や、土を耕さない「不耕起栽培」でこそ、彼らの真価が発揮されるという事実は、現代の慣行農法とは真逆の環境を指しています。先生は農業利用については慎重な見方を示されていましたが、私はここに未来への可能性を感じずにはいられませんでした。近年、脱炭素社会の実現に向けて、土壤中に炭素を貯留する「カーボン・ファーミング（環境再生型農業）」が世界的に注目されています。不耕起栽培を推奨し、土中の生態系を豊かにするこの手法においてこそ、菌根菌は主役になれるのではないのでしょうか。

「次世代の農家は、水や肥料の管理だけでなく、土の中の菌根菌の機嫌もチェックするようになる」——講演を聴きながら、そんな未来の農業の風景が脳裏に浮かびました。足元の土の中に広がる、目に見えない菌糸のネットワーク。それは太古の昔から植物を支え続け、そしてもしかすると、私たちの未来の食と環境をも支える鍵になるのかもしれませんが。未知なる菌根菌の世界への探求心は、ますます深まるばかりです。（吉村）

活動報告（よろずスタジオ）

でもヒレの形や大きさに注目してくれるといいなと思います。（海棲哺乳類ボランティア：大塚）

◆「イルカ・クジラの形入門」
2025年11月23日（日）／博物館講義室／
60名（大人34名、子ども26名）／

11月23日のよろずスタジオは、哺乳類の学芸員西村双葉さんの協力を得て初めての試み、イルカ・クジラのヒレに注目するプログラムを行いました。

イルカ・クジラの仲間4種（シャチ、ハンドウイルカ、スナメリ、ザトウクジラ）のヒレのない体のイラスト画（西村学芸員作）と 様々な形、大きさのヒレの部品が用意され、机に置かれています。西村さんの解説を受けながら、まずはシャチのヒレを置く作業で始めます。

想像を逞しくして、絵の体にヒレを置いて行きます。どれを置いても様になっているように見え、普段いかにぼんやり見ているのかを実感する瞬間です。ヒレの形・大きさ・ついている位置を、部品を置くことで体感し、その後、世界に生きるクジラ・イルカの仲間の一覧表を見せてもらって、仲間の多さと大きさや形の違いを知ります。作業を通じて学ぶので、理解度は深くなると思えました。次は大きさの体感コーナー。ザトウクジラの体長15mに合わせて用意した紐を、参加者の前で、くるくる回して行き、部屋を斜めに横切って、やっとほどき終わるよう仕組んであるので、その大きさがしっかり体感されます。最後は今長さを実感したザトウクジラの尾ビレの実寸レプリカを見せてもらいます。今得た長さの実感が三次元として現れ、「お〜」というざわめきが起きます。この五感を生かして学ぶ、工夫されたプログラムは、参加のご家族にも強い印象を残したと思われまます。大成功！！又の機会に実施したいと思いました。

（友の会スタッフ：赤堀千里）

鯨類のヒレの場所や形、大きさについて、改めて聞かれると、どうだっただろうか…？と感じている参加者が多かったことが印象的でした。

お子さんの方が正解率が高かったり、大人の方のほうに迷っていたりと幅広い年代に楽しんでいただけたようでとても良かったです。

今回パズルにチャレンジしてくれた参加者のみなさんが、水族館に行った時やテレビで見た時に少し



どの「イルカ」にどのヒレかね〜



何処に置いたら格好いいかな



体長15mって部屋一杯だ



レプリカで本物の尾ビレを実感する

活動報告（地学グループ）

◆地質観察会「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」

2025年12月13日（土）／精進池～芦之湯～畑宿
／会員21名（スタッフ含む）／山下学芸員、西澤学芸員、夏目学芸員

夕方から雪の予報が出ていたこともあり、終日お日様は姿を見せず、とても寒い一日でした。

募集案内に記されていた時刻のバスが、なんと30分近くも遅れ、集合時間に遅刻してしまうというハプニングもありましたが、多くの参加者の皆さんは熱気ムンムン、厳しい寒さもなんのその、精進池の畔を意気揚々と出発しました。

① 磨崖仏・宝篋印塔・五輪塔



二十五菩薩の刻まれた石を観察

精進池の周辺に点在するこれらの石造物群を巡りながら、石材・溶岩の種類や、含まれている鉱物等を観察しました。五輪塔は、確証は無いとのことですが、「日本三大仇討」のひとつ、曾我物語の曾我五郎・十郎の兄弟と十郎の恋人・虎御前の墓もしくは供養塔であると伝えられているそうです。

② テフラ露頭（芦之湯）

下流で飛竜の滝となる沢に浸食されて現れたローム層を観察しました。また、すぐ南側の道路の開削によってできた露頭でも、かつて同様のローム層を観察できたそうですが、現在は崩土に覆われてしまっていました。

③ 朝日弁天山遺跡

関東ローム層の地層から、今から1万2千～3千年前の旧石器時代と思われる黒耀石の石器が発掘されたそうで、その黒耀石を埋め込んだ記念碑が建てられていました。この周辺の地質は、箱根火山の前期中央火口丘溶岩の一つである弁天山溶岩で、黒耀石を含む粘性の高いデイサイト溶岩だそうです。

④ テフラ露頭（飛竜の滝北側）

この露頭では、下には黒色の角ばった礫を含む層が、上には白色の丸い石を含む層が重なっているとところを観察しました。下層は、後期中央火口丘の溶岩ドームの崩壊によって発生した火砕流による堆積物の痕跡で、上層は崖錘とのことでした。

⑤ 飛竜の滝

この滝は、前期中央火口丘溶岩を流れ落ちる、上段15m、下段25mの2段の滝で、かつては修験者の修業の場であったそうです。芦之湯と畑宿を結ぶ道は、途上にこの滝があったことから、「滝坂道」と呼ばれていたそうです。

⑥ 柱状節理

デイサイト質の溶岩の柱状節理を間近で観察しました。この柱状節理は、粘度が高い溶岩のため固まりながらゆっくり流れたそうで、柱の方向がほぼ真横を向いていました。



柱状節理の露頭にて

⑦ 黒耀石

沢の北側斜面に黒耀石が散乱している場所を観察しました。ここも弁天山溶岩と同質のデイサイト質の溶岩だそうです。畑宿の黒耀石は、湯河原・鍛冶屋の黒耀石と並んで、旧石器時代から石器に加工して用いられてきました。しかし、不純物が比較的多いためか、次第に、より質が高く加工がしやすい、伊豆諸島の神津島産や長野県の和田峠産の黒耀石に取って代わられてしまったようです。

今回のテーマは、「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」ということで、火山活動が影響を及ぼした地形と、溶岩を中心に観察しましたが、自然科学的な側面だけではなく、磨崖仏をはじめとする石造物や、旧石器時代以降の人々の暮らしに大きな影響を与えた黒耀石の石器など、人文科学的な側面でも楽しめるとても充実した内容でした。

ご案内いただいた山下学芸員、西澤学芸員、夏目学芸員、そしてこのような楽しい観察会を企画いただいた、地学Gの皆様、どうもありがとうございました。
(鈴木悟)

活動報告 (サロン・ド・小田原)

◆第145回「トンボやゲンゴロウなどの水生昆虫の危機—ネオニコチノイド系農薬と地球沸騰の影響—」

2026年1月17日(土) / 西側講義室 / 16名+オンライン参加37名 / 菟部治紀氏 (当館学芸員)



熱心な小学生の参加もありました

農薬規制や環境問題の意識の高まりなどで、回復の兆候が見られてきたが、再び顕著に。なぜ減ったのか？要因が判明、①の近年切り替わった新型のネオニコチノイド系農薬で、使用量の減、使用回数の減、紫外線で分解され、安全だと期待され、普及していったが、土壌では分解されずに長期間残留、地下水に溶け込み湧水として出現。雨水にも溶け込み表土を流れ、水質汚染の要因となり、大きな影響を与えている。農薬は必要？農薬との付き合い方を考える必要が？生き物を守りながら農業も守る事が重要。また、②の地球沸騰で、自然界では北方系の種の衰退、湿地帯の干上がり、干ばつなどが起こっている。急激な温暖化で、劇的な気候変動で、自然界は激変し、新たな危機要因となり、影響が出始めている。

生き物を守る事は、自然を守ること。なぜ減ったのか？そこには、人為的な関与が大きな問題となっている。棲息環境は今、人が手を加えなければ維持できない状況に来ているのでは？自然との付き合い方を考える必要が？棲息環境を元に戻す(自然の再生)、場所を選んで新たに創りだす(自然の創成)、などが重要になるのでは？

生き物を守る為には、特定の種(希少種)に注目するだけでなく、どのような生態系なのか、より広い視点が重要になっている。同じ地域に棲息する、生き物全体を考えながら、生態系も守る。なぜ減ったのか？目を向ける、関心を持つことが大切。好きになる、好きになれば頑張れる。諦めない、生き物全ての為に。激減は今も進行中、危機的な状況にある事は、疑いの余地もない。身近な生き物(普通種)には記録が無い。居て当たり前。数を減らしても判らない。気が付いた時には減っていた、消えていた。では、すまされない話題でした。(石塚富美雄)



話題提供者 菟部学芸員

今回のサロン・ド・小田原は、今までと二つ異なる点がありました。それは、いつもと同じように講義室を使ったライブ形式の他に、オンラインでの参加も可能としたことと、話題提供者の菟部学芸員が膝の手術を終えたばかりのリハビリ中に松葉づえについてお話に来てくれたことです。実は、講演の始まりもこの手術の様子から始まり、本題へと移っていきました。



手術のレントゲン写真をみせながら話は始まった

水生昆虫が激減している。なぜ減ったのか？国内の水生昆虫の危機的な現状と、最近明らかになってきた①農薬、②温暖化(地球沸騰)などの危機的な要因について紹介されました。危機的な現状の要因としては①②の他に、河川の護岸工事に伴う自然護岸の消失、埋め立てによる池沼など湿地の消失、里山の荒廃、外来種の侵入による脅威、などがあるが、これらの人為的な関与が、大きく影響して自然を劣化させた為、と考えられてきた。

行事案内

◆ 植物観察会 『身近な植物観察入門』

植物グループのスタッフと気楽に植物観察をする初心者対象の観察会です。今まで博物館周辺で実施していましたが今年から他の地域でも実施いたします。月によって場所が異なりますのでご注意ください。今まで同様、初めての方、会員外の方大歓迎です。

★4月の『身近な植物観察入門』

日時：4月25日（土）
集合：博物館正面 前庭 10時
解散：同所 12時頃
観察地：博物館周辺
WEB申込締切：4/22（水）
電話申込：4/20（月）～4/22（水）
担当：石井 080-6618-1467

★5月の『身近な植物観察入門』

日時：5月23日（土）
集合：小田急線 座間駅改札口 10時
解散：座間谷戸山公園 12時頃
観察地：座間谷戸山公園（座間駅から徒歩10分）
WEB申込締切：5/20（水）
電話申込：5/18（月）～5/20（水）
担当：小久保 090-4136-3025

各回共通

参加費：50円（保険料）
講師：友の会植物グループ
対象：オープン・どなたでも
小学3年生以下は保護者同伴でお願いします
持ち物：飲み物・雨具・あればルーペ、虫メガネ等
申込み：[友の会のWEBフォーム](#)で

*メールを使わない方は各月担当者へ電話で
上記の期間内の**18時～21時**に申込み

雨天等で中止の場合は申込者に担当から電話連絡いたします

問合せ：各担当者へ（18時～21時）

（博物館には問合せないで下さい）

◆ 植物観察会 『大雄山の春の植物』

バスを降りるとそこは600年の歴史を持つ曹洞宗の古刹、大雄山最乗寺の境内。幽玄な雰囲気のある寺域には多くの植物があり私達を楽しませてくれます。県内では箱根、丹沢周辺に分布の限られるナベワリ、ヤマトグサや可憐なカヤランの花、多くのシダなどが待っています。

実施日：4月27日（月） 雨天中止

場所：南足柄市 大雄山最乗寺

集合：大雄山線大雄山駅改札 9:50

小田急線利用の場合新松田駅から関本（大雄山駅）行きのバス便あり

10:05 発の「大雄山」行きのバスに乗ります

解散：最乗寺 道了尊バス停 14:30頃

講師：田中徳久氏 当館館長

対象：オープン（会員外の方も対象）

大人20名（応募者多数の場合抽選）

参加費：会員500円、非会員700円

申込み：友の会のWEBフォームで4月18日までにお申し込みください。メールアドレスがない方は4月16日～18日（19時～21時）の間に電話でお申し込みください。

電話申込先：小久保 090-4136-3025

当日連絡先：小久保 同上

佐々木 080-5686-6762

*詳細はメールでお知らせします



ヤマトグサ



ナベワリ

◆ 地質観察会『パンニングで鉱物探し』

※2025年5月31日に予定していましたが中止になりましたので、再度計画しました。

日時：4月29日(水・祝) 10:00~14:00
集合：10:00 小田急線「和泉多摩川」駅前
解散：14:00 多摩川観察場所
講師：夏目 樹氏・山下浩之氏・田口公則氏
(当館学芸員)

対象：友の会会員
募集：会員20名(定員を超えた場合は抽選)
参加費：50円(保険代)
服装：長袖、長ズボン、はきなれた靴
持ち物：昼食、飲み物、パンニング皿、長靴、濡れてもよい手袋、ジッパー付きポリ袋、ピンセット、レジャーシート、ルーペ、移植ごて(スコップ)、折りたたみ椅子(あると便利です)

内容
和泉多摩川駅から多摩川の土手を歩き15分ほどで観察場所に着きます。
午前中に地層の観察(田口講師)、河原の石の観察(山下講師)、パンニングのやり方(夏目講師)
昼食後は自由にパンニングで鉱物探し。
14時で解散にしますが、その後はご自身の判断をお願いします。

観察会状況(下見時より)



観察会場所



パンニング

※ 観察時は長靴または濡れてもよい靴を用意された方が良いです。

素足での行動は危険ですからやめてください。

※ パンニング皿は貸出可能ですが、数量が限られますので、出来るだけご自身でご用意ください。

申込み：往復ハガキもしくは講座申込 Web フォーム(最終ページに記載)にて参加申し込みをしてください。

パンニング皿貸出希望者は、「その他」欄にその旨記載してください。

申込先：〒250-0031

神奈川県小田原市入生田499
神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
地質観察会担当宛

申込締切：4月6日(月)必着でお願いします。

※河川での観察会ですので、前日の夕方に開催判断をします、ご承知おきください。

問合せ先：

生命の星・地球博物館友の会 地学グループ
担当者 長山武夫 携帯 090-1807-7818

◆ よろずスタジオ

対象：子ども(当日の来館者)

申込み：不要//オープン

参加費：無料

場所：博物館1階講義室(東側)

◇ 「アンモナイトをなぞろう！」

アンモナイトなどの化石の写真をなぞって、スケッチにチャレンジしてみよう。

日時：5月3日(日) 13:00~15:00



◇ 「巻貝の中をのぞいてみよう！」

巻貝のスライスした標本をみて中がどうなっているか観察してみよう。観察した後はクレヨンで写し取って記念に持ち帰ろう！

日時：6月28日(日) 13:00~15:00



写し取った巻貝の断面

◆ 第146回サロン・ド・小田原

演題：『自然史アーカイブズ
—書いて描いて撮った探究者の記録—』

話題提供者：

大坪 奏 氏・田口公則氏 当館学芸員

日時：5月9日(土)14:00~15:30

受付は13:40から

場所：神奈川県立生命の星・地球博物館
1階 西側講義室

対象：オープン

申込み：当日受付制（45名先着順）

参加費：無料

内容紹介：

当館には過去の研究者のスケッチ・ノートなど自然史に関連する記録資料がたくさん保管されています。開催中の企画展は、ふだんは表に出ることのない記録資料を読み解いて自然史研究の舞台裏に迫るものです。本講演では、企画展だけでは語り切れない奥深い自然史アーカイブズの世界を紹介します。

◆ 植物観察会「箱根、精進池～芦ノ湯へ」

初夏の箱根路を歩きませんか！

きっとサンショウバラ、ヒメヘビイチゴやヤブデマリの花々が出迎えてくれる事でしょう。

緩やかな下り坂を植物を観察しながら歩きます。

コース上には歴史ある石仏群や摩崖仏が見られます。ご参加をお待ちしています。

実施日：6月10日(水) 雨天中止

場所：箱根町、精進池～芦ノ湯

集合：小田原駅東口 箱根登山バス3番乗り場
8時50分集合、9時05分発、箱根町港行き
バスに乗車 六道地藏下車

解散：芦ノ湯 15時頃

コース：精進池～石仏群～芦ノ湯(トイレ)

講師：田中徳久氏 当館館長

対象：オープン(どなたでも) 大人20名

参加費：会員700円 非会員900円

申込み：友の会のWEBフォームで5月27日

(水)までにお申し込みください。メールアドレスがない方は5月25日～27日(19時～21時)までに電話でお申し込みください。

電話申込先：橋川 090-6162-2963

当日連絡先：橋川 同上

佐々木 080-5686-6762

※詳細は後日メール等でお知らせいたします。



箱根町の花 サンショウバラ

初夏の空と深緑に淡いピンクが映えます。

◆ 地話懇話会『箱根火山と斑岩鉱床』

話題提供者：温泉地学研究所研究課長
萬年一剛 氏

日時：6月13日(土)14:30~16:00

受付は14:10から

場所：神奈川県立生命の星・地球博物館
西側講義室

対象：オープン

申込み：当日受付制(人数制限は設けません)

内容紹介：

電線の製造に不可欠な銅は、「斑岩鉱床」と呼ばれる鉱床からその6割が採掘されています。このような重要性から斑岩鉱床は盛んに研究されています。一方で、多くの活火山の地下には、斑岩鉱床に類似した構造が存在している可能性が指



大涌谷と萬年一剛氏

摘されるようになってきました。本講演では、こうした最新の研究成果を手がかりに、箱根火山の地下で現在どのような現象が起きているのかを考えていきます。

◆ 土の中のムシ ウォッチング 2026

土の中にはどんな生き物がいるのかな？

土の中から小さな生き物を探しだして、顕微鏡で観察してみよう！

土の中の小さな生き物に出会う方法教えます。

さあ、どんな生き物に出会えるかな。

日時：6月20日（土）10:00～15:00

小雨決行

場所：博物館3階 実習実験室

講師：中森泰三氏（横浜国立大学教授）

講師補助：山本知希・坂井優太・富森 一（敬称略）

対象：オープン どなたでも（親子で参加歓迎・小学生以下は必ず親同伴）

定員：25名（申し込み：先着順）

参加費：会員 500円/人、

非会員 大人 700円/人

中学生以下 500円/人

服装：長袖・長ズボン・帽子・動きやすい靴

虫メガネ（もっている人、なくても大丈夫）（マスク）

持ち物：筆記用具（色鉛筆含む）昼食・飲み物

（レストランはありますが、時間がかかる可能性があります。）

申込み：友の会のWEBフォームで5月20日（水）までにお申し込みください。メールアドレスがない方は往復はがきでお申し込みください。

問合せ先：矢野 090-7034-6617（19:00～21:00）



顕微鏡観察と見つかったカニムシ（過去の講座より）

友の会主催行事の参加申込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください。

◆現在、一部の講座でWEBフォームによる申込受付を行っています。以下のQRコード又はURLよりアクセスして、申込をしてください。

なお、申込後すぐに「フォームの回答のコピー」が送られて来ない場合は受付がされていませんので、再度申込みをお願いします。それでも「フォームの回答のコピー」が来ない場合は、問合せ先等にご連絡ください。

URL：

<https://docs.google.com/forms/d/1mZYCyRovhOiHe5DvvDGfzaWu0KLUkP-6viVd-ZACQy8/edit>



注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のは特記事項に記載があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接<連絡先>へお問い合わせください。

■持ち物など詳細はメール・返信はがきに記載されます。

次号は、2026年6月15日発行予定です

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.29、No.4、通巻131号2026.3.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo
X：@kpmtomo